



思いやりの子が育つ

学校長 村越 新

「思いやりのある子」を、本年度の扇小では、「**温かい言葉**を発する子」「**感謝の気持ち**を持てる子」「**協働**できる子」ととらえています。

そんな「思いやりのある子」が育っていると実感できる場面がありました。



一つ目は、**六年生**です。一年生の教室で、朝のお世話をしていた子たちが、「**遠足**の見送りをしたい」と担任に訴えていました。しかし、この日は六年生も一校時から水泳です。出発を見送ることはできません。そこで、教室にいる一年生に一言ずつ**メッセージ**を送ることとなりました。「行ってらっしゃい」「楽しんでね」「ケンカしないでね」「がんばってきてね」などと、六年生が一年生に声をかけました。一つ一つのメッセージに、一年生もうれしそうに「はい！」と**返事**をしていました。教室を出て行く六年生と、数十分後に遠足に出かける一年生は、手を振りながら別れました。

二つ目は、**五年生**です。**新体力テスト**で二年生のお手伝いをしていました。反復横跳びと上体起こしの**記録**を取るお手伝いです。ペアの子に熱心にやり方を教える五年生の熱心さには、本当に感動しました。やり方を必死に説明したり、自ら見本を見せたり、一緒にやったり、コツを伝えたり。反復横跳びのやり方を覚えた二年生の姿を見て、「上手！上手！」と手をたたいて**大喜び**する五年生がいました。上体起こしのやり方が分かった二年生を見て、「おー！やったー！」と、体全体で喜びを表し拍手している五年生がいました。

五六年生の姿も嬉しかったのですが、同時にその思いやりを**素直**に受けとめ、**感謝**の気持ちを表している一二年生の姿も嬉しかったです。

授業での学び合いや集会等で「協働」の場面が多々あります。「協働できる子」も確実に増えていると感じます。思いやりのある子が多いのは、扇小の自慢の一つ。さらに磨いていきたいものです。





児童集会

6月12日に児童集会が行われました。「兄弟学級で遊ぼう」の会でした。

この日のために4、5、6年生は準備を進めてきました。遊ぶ内容、進行の仕方、必要な物などを決めて、この日を迎えたのです。

どの教室に行っても、楽しそうな雰囲気の中でたくさんの笑顔がありました。

この日の給食中には、五年生が感想を発表してくれました。「二年生と遊べて楽しかった」「二年生が楽しそうにしてくれて、嬉しかった」「来年ももっと楽しみたい」などと話してくれました。

運動



雨が降る日が増えてきました。校庭の状況によっては、晴れていても外で遊べない日もあります。判断が微妙な時には、放送を入れます。

「この時間は校庭で遊ばません」「水たまりを避けて遊んでください」などです。「遊べない」放送が入ると「えーっ」というがっかりした声が、「遊べる」放送の時には「やったー!」「最高!」という大歓声の音が職員室まで聞こえてきます。運動好きな子が多いのも、扇小学校の自慢です。

ゴールデンエイジ（人間の生涯の中で運動神経の応用力が最も発達する時期、9～12歳）とプレゴールデンエイジ（ゴールデンエイジの前段階、3～8歳）に運動する子は、運動神経が発達すると言います。メンタルの不調から私たちを守ってくれるのは運動（by アンディシュ・ハンセン）と言います。

梅雨に入ると、校庭が使える日が減ります。運動ができる貴重な日には、体を思いっきり動かしてもらいたいです。

研究発表会

校内研修を市内の先生方に発表する「研究発表会」は11月8日（金）です。

授業を公開する1年4組、4年生、6年4組の下校時刻は14時30分、それ以外のクラスの下校時刻は12時35分になります（予定）。

この日は、永井玲衣氏（哲学者）の講演を計画しています。